

学級活動における自治的・自律的な話し合い活動を 支える指導の実現

—— 「議題・題材設定シート」「教師の働き掛けシート」の作成と活用 ——

長期研修員 木暮 直隆

本研究は、学級活動における話し合い活動において、児童の課題や願いを基にして、議題・題材を導き出すと共に、課題の解決に向けた話し合い活動での支援を想定するための授業構想を目指したものである。そのために、議題や題材を発見する「議題・題材設定シート」、授業展開を把握することで児童への働き掛けを事前に準備しておくための「教師の働き掛けシート」の2種類の資料を、授業を構想する手立てとして提案する。この手立てが、児童の思考の流れに沿った課題解決のための話し合い活動の構想と、自治的・自律的な活動を支える教師による効果的な働き掛けを可能にする。さらに、児童が学級や個人の感じている課題を解決するための取組を合意形成したり、意思決定したりするための支援をする上で有効であることを、実践を通して明らかにした。

キーワード 【特別活動 学級活動 話し合い活動 児童の思考 教師の働き掛け】

群馬県総合教育センター

分類記号：G11-01 令和元年度 270集

I 主題設定の理由

小学校学習指導要領解説特別活動編(平成29年7月)(以下、新学習指導要領解説)において、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善が推進されている。この改善に基づいて特別活動で育成を目指す資質・能力は、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点に整理された。これら三つの視点からなる資質・能力を育成するための学習の過程として、「様々な集団活動に自主的, 実践的に取り組み, 互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して」とあり, 集団活動を通して, 課題を解決する力を育むことの必要性を述べている。集団活動には他者と話し合う行為が必要となり, このことは特別活動の学級活動の目標に、「学級や学校での生活をよりよくするための課題を見だし, 解決するために話し合い, 合意形成し, 役割を分担して協力実践したり, 学級での話し合いを生かして自己課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることを通して, 第一の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す」と表されている。この記述内容からも, 資質・能力を育成するために学級活動における話し合い活動の充実が重要と考える。

群馬県では, 各教科と同様に『はばたく群馬の指導プランⅡ』(2019 群馬県教育委員会)を作成し, 学習の内容や授業展開などを説明している。また, 群馬県総合教育センターでも長期研修員や特別研修員などが学級活動における話し合い活動に関する実践研究などを行い, 学級活動(1)における合意形成の際に活用する資料や話し合い活動の進め方などについて提言している。群馬県教育委員会の平成31年度学校教育の指針では, 「自己存在感, 共感的な人間関係, 自己決定に留意し, 個々の児童生徒の自己指導能力の育成を目指しましょう」と記載がある。その中の共感的な人間関係を育む手立てとして, 児童生徒が互いの考えを交流し, 互いのよさを学び合う場の工夫が必要であり, 学び合う場の一つとして, 学級活動の話し合い活動が考えられる。

学級活動の話し合い活動の現状と課題を把握する目的のために, 「学級活動について課題を感じている場面」について小学校の教員 300人にアンケートを行った。結果は, 「児童の育成する資質・能力を意識して議題(題材)を児童と共に設定する」「話し合い活動の中での課題の解決を目指し, 考え出された発言に対し, 合意形成, 意思決定に向けた支援をする」の二点に対し, 学級活動を行う上で教師が困り感を感じていることが分かった。

以上のことから, 「学級や児童の課題を捉え, 議題や題材を設定していくこと」や「話し合い活動の中で児童の思考の流れをイメージし, 課題解決に向けた働き掛けを想定すること」を解決するための資料として, 「議題・題材設定シート」「教師の働き掛けシート」の二つを作成することとした。これらの資料を使うことで, 自身の課題や学級の課題を自分事として捉えるようにする。そして, 話し合い活動を通して他者の意見を踏まえることで, 自身の考えを深め, 課題を解決するための方法を明確にもつことができるようにする。このことによって, 子供たちによる自治的・自律的な話し合い活動につながると考え, 本研究主題を設定した。そして, このことが小学校学習指導要領で示された学級活動の目標を達成し, 「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の育成につながると考える。

II 研究のねらい

話し合い活動において, 議題・題材を見いだしたり, 児童の思考をイメージすることで教師が効果的な働き掛けを想定したりすることで, 「議題・題材設定シート」「教師の働き掛けシート」を活用することは, 児童が自身の課題や自身が所属する集団の課題を自分事として捉え, 課題解決のための方法を明確にし, 課題解決のための取組内容を決めていくことを教師が支援する上で有効であることを明らかにする。

III 研究仮説(見通し)

- 1 三つの質問項目で構成した「議題・題材設定シート」を活用することで, 児童の実態を踏まえた

「話し合うこと」「話し合いのめあて」「議題・題材」を設定することができるであろう。

- 2 2種類のシートで構成した、「教師の働き掛けシート」を教師が作成することで、1単位時間の児童の思考の流れをイメージし、児童への働き掛けのポイントを見だし、適切な働き掛けを行うことができるであろう。

IV 研究の内容

1 学級活動を行う上で教師が抱える課題について

学級活動を行う上で、教師が抱えている課題を把握するため、小学校の教員 300人を対象に、アンケート調査を行った。質問項目は、事前の活動、本時の活動、事後の活動について、『特別活動小学校編』（2019 文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター）の教師の振り返りの例を参考に、10項目に整理して作成した。回答は、「課題と感じている」「課題と感じていない」「普段あまり意識していない」の三つのうち一つを選ぶこととした。そして、「課題と感じている」「普段あまり意識していない」の割合が高いアンケート結果に着目した結果、次の二つを課題と捉えることができた。

課題1：学級や児童の課題を捉え、議題や題材を設定していくこと

課題2：話し合い活動の中で児童の思考の流れをイメージし、課題解決に向けた働き掛けを想定すること

2 自治的・自律的な話し合い活動について

(1) 学級活動の話し合い活動について

本研究では、学級活動の内容(1)(2)を扱う。

学級活動(1)は、学級や学校の生活の中から、学級をよりよくするための課題を見付け、その課題の解決策を学級で話し合い考え出した後に、協働して実践する活動である。この話し合い活動の中で大切なのは、児童の中から出された多種多様な意見のよさを生かしながら、話し合い活動の中で折り合いを付け、合意形成を図っていくことである。話し合い活動の過程で意見の違いや多様性に触れて考えを広げたり、他者と意見を出し合う中で考えを深めたりする。併せて少数の意見を大切にすることのよさや大切さについて学習する。

学級活動(2)は、自身の生活を振り返ることで課題に気づき、自身の課題を解決する方法を意思決定する活動である。自身の課題に気付く上で大切なことは、課題について自身の生活を振り返り、振り返りを通して見いだした課題を改善するための最善な方法を探していくことである。そのためにも自身が理想とする姿を明確にもち、理想とする姿になるために自身が行う活動について決めていかなければならない。学級活動(2)の話し合い活動で一人一人が意見を出し合い、聞き合うことで、自身の課題の解決に向けて考えを広げたり深めたりすることが、意思決定を行っていくには大切となる。

(2) 本研究における自治的・自律的な話し合い活動の姿について

自治的・自律的な話し合い活動をするためには、自身の課題や自身が所属する集団の抱える課題を自分事と捉えることが大切である。それが、解決に向けて話し合うための目的となるからである。また、解決に向けて話し合う際には、自身の好き嫌いなどの感情とは別に、課題を意識して話し合う必要がある。そのためには、話し合い活動の中で課題解決に向け、意見の根拠を明確にして話し合うことが大切である。そこで、本研究では自身の課題や所属する集団の抱える課題を自分事として捉え、課題の解決に向け、根拠を明確にしながらか話し合っている姿を自治的・自律的な話し合い活動の姿と捉えた。

3 「議題・題材設定シート」及び「教師の働き掛けシート」について

(1) 「議題・題材設定シート」について

アンケート調査の結果から明らかになった、課題1に当たる「学級や児童の課題を捉え、議題や題材を設定していくこと」についての解決を図るため、「議題・題材設定シート」を作成すること

とした。

「議題・題材設定シート」は、児童自身の課題と児童が所属する集団の課題を把握し、学級活動の議題や題材を見付けるためのシートである。よりよい合意形成や意思決定につなげるためには、議題・題材を設定する段階で、課題を明確にし、解決につながる実践の内容を適切に設定した上で、話し合う際の視点を明確にしておくことが重要である。そのため、本時を具体化するために、次の3点を設定することが重要と考える。

- 実践することを明確にし、「話し合うこと」を設定すること
- 話し合う際の視点を明確にして「話合いのめあて」として設定すること
- 「議題」または「題材」を設定すること

学級活動で「話し合うこと」は、課題の解決につながる適切な実践の場を準備することで絞り込むことができる。そして、話し合う過程で、課題の解決に向けて大切なことを考えられるような活動を考える必要がある。

話し合う際の視点を明確にするには、「話合いのめあて」を適切に設定し、共通理解しておく必要がある。『はばたく群馬の指導プランⅡ』では、学級活動(1)の「話合いのめあて」として、二つの例が示されている。そのうち、「話合いの内容のめあて」を踏まえることで、話し合う際の視点となる。例えば、「みんなが楽しく遊べる遊びの内容を考えよう」という「話合いのめあて」に照らして話し合うことにより、「みんな」とは誰のことを指すのか、「楽しい」とは、具体的にどのようなことなのかについて共通の認識をもつことになるのである。また、「話合いのめあて」を設定するためには、「児童が目指す理想的な状態」を想定し、目指す状態に向かって話し合えるようにすることが大切だと考える。そのためにも、「課題と背景にある要因」を捉える必要がある。例えば、「男女間のいがみ合いが多い」という課題は、「男女で触れ合う機会が少ない」(課題が生じた生活)、「互いのよさを理解できていない」(課題から生じた状態)などの要因から生じることが考えられる。これらの要因が解決された肯定的な状態が、児童が目指す理想的な状態である。児童が目指す理想的な状態から、「男女分け隔てなく触れ合うことができる」(課題の解決につながる生活)、「互いのよさを理解できる」(課題が解決できた状態)という話し合う際の視点が見付けられ、「話合いのめあて」へとつながっていくと考えた。

一方、学級活動(2)については、アンケートなどで把握した課題を児童の言葉に置き換えて提示し、話合いの方向性を意識させることが大切である。例えば、「友達のことを思いやれる状態になるために、友達と接する上で大切なことが分かる活動を考えよう」という「話合いのめあて」の場合は、「大切なことが分かる」に当たる部分が話し合う際の視点となる。

なお、「課題と背景にある要因」「話合いのめあて」「話し合うこと」は、議題・題材を明確にすることを通して、見いだしていくことが大切である。すなわち、これら三つを見いだすことが議題や題材の適切な設定につながっていくのである。以下に例を示す。

- ・ 「課題と背景にある要因」： 「男女で触れ合う機会が少ない」「互いのよさを理解できない」
- ・ 「話合いのめあて」： 「男女が互いのよさを理解できるように、男女で触れ合う機会が多い活動を考えよう」
- ・ 「話し合うこと」： 「みんなで取り組む遊びを一つ決める」
- ・ 「議題」： 「男女関係なくみんなで仲良くなるために、みんなで取り組む遊びを考えよう」

このように、議題・題材を明確にするためには、自己や集団が抱える課題は何か、それらを解決した理想的な状態とはどのような状態かを、具体的に捉える必要がある。

そこで、「議題・題材設定シート」に三つの記述欄を設け、質問内容の順序性を考慮して、以下の順に整理し構成した。

- ① 「課題と背景にある要因を明確にする」
- ② 「児童が目指す理想的な状態を想定する」
- ③ 「実践する場を準備する」

教師が集団の課題から課題の背景にある理由を捉え、「児童が目指す理想的な状態」を事前に想定しておくことで、「議題・題材」「話し合うこと」「話し合いのめあて」を設定することができる。その結果、児童に自身の課題、自身が所属する集団の課題を自分事として話し合えるようになる。なお、学級活動(1)(2)共に、同じシートを使用する。

(2) 「教師の働き掛けシート」について

The diagram shows a 'Discussion Topic Setting Sheet' with three main sections highlighted in red. Callouts on the right explain each section:

- 質問項目① 課題と背景にある要因**
 - ・学級に表れている課題を記述する。
 - ・課題の背景にある要因を探り、解決すべき課題を適切に捉える。
 - ・課題の背景にある要因は、課題が生じた原因である生活と状態を捉える必要がある。

【課題】 : 何かするときに主体的に動けない
 【課題の背景にある要因】 : 挑戦する機会が少ない(生活)
 自分たちで考え活動する楽しさを知らない(状態)
- 質問項目② 児童やクラスが目指す理想的な状態**
 - ・課題を解決できた児童の理想の姿を想像することで、目指すゴールを明確にする。
 - ・論点からそれずに話し合い活動を進めていける。
- 質問項目③ 実践する場面を準備する**
 - ・「話し合いのめあて」を実践できる活動内容を考え、シートに記述する。
 - ・本時で、話し合う取組内容を決める。

At the bottom, a section titled 「話し合うこと」「話し合いのめあて」「議題」の設定 explains the flow:

- 質問項目①～③を考えたことを踏まえて「話し合うこと」「話し合いのめあて」「議題」を見だし、設定する。
- ・質問項目②が「話し合いのめあて」につながる。
- ・質問項目③が「話し合うこと」につながる。
- ・「話し合いのめあて」「話し合うこと」を踏まえて、議題を設定する。

図1 三つの質問項目から構成した「議題・題材設定シート」

アンケート調査の結果から明らかになった課題2に当たる、「話し合い活動の中で児童の思考の流れをイメージし、課題解決に向けた働き掛けを想定する」ことについての課題を解決するために、「教師の働き掛けシート」を作成することとした。

「教師の働き掛けシート」は、2枚1セットである。そのうち、学級活動における児童の思考の流れをイメージすることにより、1単位時間の授業展開を把握する資料が「教師の働き掛けシート1」となる。また、教師の効果的な働き掛けの場面と内容を把握し、話し合う際の視点から児童の意見がそれることに備え、支援の方法を具体化する資料が「教師の働き掛けシート2」となる。

教師が効果的な働き掛けを行うためには、「つかむ」「さぐる(出し合う)」「見付ける(比べ合う)」「決める」場面での児童の意見を具体的にイメージして、1単位時間の授業の児童の意見や考え方を把握する必要がある。そのために、「教師の働き掛けシート1」を使う。そして、児童の話し合い活動が課題解決の方向からそれないようにするために、教師が働き掛けをする場面や内容を事前に想定する、「教師の働き掛けシート2」を使う。

また、教師の働き掛けとは、話し合いが課題解決に向かうための方向性を示すために、児童に行う助言や問い掛け、称賛などの支援のことである。教師の働き掛けとして大切になってくることは、児童の自治的・自律的な活動となるよう、「話し合いのめあて」に沿って調整しながら、話し合い活動を進められるように支援していくことである。

① 「教師の働き掛けシート1」

学級活動の内容(1)(2)について、学級活動における授業の流れの確認と、図2の内容で構成されたA4判のシートである。1単位時間の基本的な流れは『はばたく群馬の指導プランⅡ』に沿って示しており、授業の流れをつかむことができる。ただし、本資料はあくまで大まかな児童の思考の

流れをイメージするために使うものであり、利用する上で大切になるのは、必ずしも想定したように授業が展開しなくてもよいことを理解しておくことである。また、シートの全ての項目が記述できなくても構わない。あくまでも、授業者が授業をする上で事前に児童の思考の流れをイメージし、授業に向かうための準備をするために使うシートである。

【教師の働き掛けシート1】

各場面	「話し合うこと」	「話し合うこと」	「話し合うこと」	「話し合うこと」	「話し合うこと」
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめの言葉 ・討論委員の紹介 ・議題の整理 ・話し合うことの確認 ・話し合いのめあての確認 				
出し合う	クラスメイトクイズ ①みんなで一緒に考えられる ②答えることで、互いを理解できる。	好きなもののランキング ①読むことで互いの好きなものを知る ②答えることで、互いを理解できる。	給食ランキング ①読むことで互いの好きな給食が分かる ②答えることで、互いを理解できる。	クラスニュース ①みんなで一緒に考えられる ②答えることでクラスメイトのことが分かる	サッカー選手ランキング ①みんなで一緒に考えられる ②答えることでクラスメイトのことが分かる
比べ合う	「話し合いのめあて」に照らして、賛成の理由を出して話し合う。そして、児童から出された賛成の意見を基に、「話し合いのめあて」に照らして、意見を絞る。 「話し合いのめあて」に当てはまる意見には「○」、一部当てはまらないものには「△」の記号を付け意識化する。				
決める	「話し合いのめあて」に照らして、よりよい意見に近づけていくために、「選択」「合体」「工夫」の方法を考え、取組内容を合意形成していく。				

【①つかむ場面】

- 学級活動で話し合う内容について確認していく。
- ・「議題」「話し合うこと」「話し合いのめあて」などの確認

【②出し合う場面】

- 「話し合うこと」について考えた意見を出し合い、話し合う。
- ・児童が「話し合いのめあて」に当てはまると考える意見
- ・児童が意欲をもって取り組める活動

【③比べ合う場面】

- 「話し合いのめあて」に照らして、賛成の理由を出して話し合う。そして、児童から出された賛成の意見を基に、「話し合いのめあて」に照らして、意見を絞る。
- 「話し合いのめあて」に当てはまる意見には「○」、一部当てはまらないものには「△」の記号を付け意識化する。

【④決める場面】

- 「比べ合う」場面で絞った意見を、よりよい意見に近づけていくために、「選択」「合体」「工夫」の方法を考え、取組内容を合意形成していく。

「選択」 クイズならみんなで考えられるし、友達の話がたくさん知れる。

「合体」 ニュースをクイズにすれば、役割分担もたくさんできるし、両方できるから、多くの人を楽しめる。

「工夫」 ニュースの内容の種類をたくさんにすれば、いろんな内容を知ることができるし、考えるときに多くの人に参加できる。

図2 四つの場面で構成した「教師の働き掛けシート1」【学級活動(1)の例】

図2の学級活動(1)の各場面の活動内容について説明する。「つかむ」場面では、全体の場で、話し合う内容について確認することで、話し合い活動がスムーズに進むよう方向付けをすることが重要となる。「出し合う」場面では、「話し合うこと」に基づいて、一人一人が意見を出し合うことで、全員が課題意識をもって取り組めるようにすることが大切である。「比べ合う」場面では、「話し合いのめあて」に照らして、賛成の理由を述べることで、課題解決に向けて何に取り組めばよいかを明確にし、意見を絞っていくための手掛かりとすることが大切である。「決める」場面では、「選択」「合体」「工夫」の方法を使い、よりよい意見とすることで、合意形成につなげていくことが大切である。

図2の「予想される児童の意見」の項目では、それぞれの場面における児童の意見や根拠を実態に基づいて予め想定し、記述できるようにした。具体的には、図2のとおりである。学級活動(1)で、合意形成する上で特に重要となるのは、「比べ合う」場面で意見を絞っていく場面と「決める」場面である。「比べ合う」場面では、「話し合いのめあて」に照らし、その中で確認した視点に当てはまるかどうかを「○」や「△」の記号で記述することで、意識化できるようにする。「話し合いのめあて」により当てはまるものに「○」が付き、「決める」場面で話し合っていくための意見として絞られる。なお、学級活動(2)では意思決定するための理由を考えやすくするために、それぞれの意見に取り組むことでどのようなよさがあるのかを考えることにより、「集中力が付く」「体力が付く」など、取り組むことのよさを視点に、意見を分類していく。

「決める」場面では、「選択」「合体」「工夫」の方法を使うことで、根拠に基づいた意見にすることができる。

・選択… 「選択」の方法とは他の意見と比べた際に、「話し合いのめあて」により向いていることに

ついで理由を述べていく方法である。

例：「他の意見よりも男女一緒に協力できるからです。」

- ・合体… 「合体」の方法とは、「話し合いのめあて」に当てはまる二つの意見を融合させることで、より多くの者が納得できるようにする方法である。

例：「走るのと投げる競技を合わせて、一つの競技にできるとよいと思います。」

- ・工夫… 「工夫」の方法とは、意見を少し変えたり、付け足したりする方法である。

例：「少しルールが難しいので、クラス全員ができるようにルールを変更するとよいと思います。」

なお、学級活動(2)では、児童が意思決定する理由と実践の内容を考え、理由として「本を読めば、集中力が付く」、方法として「読みたい本を、毎日夕飯の後に、30分読む」などのように具体的に記述する。

② 「教師の働き掛けシート2」

授業が進行している中で、児童の話し合い活動が課題解決の方向に進まないことが予想される場合には、授業者が助言や問い掛け、称賛などの働き掛けをし、児童が思考を広げたり深めたりするため支援をする必要がある。そのような働き掛けを想定するために使用するのが「教師の働き掛けシート2」である(図3)。

図3は、教師の働き掛けシート1とシート2の関係を説明しています。シート1はA4判の大きなシートで、児童の話し合いの場面を記録するためのスペースです。シート2はA3判の小さなシートで、特定の場面（「比べ合う場面」「決める場面」）に対して、教師がどのような働き掛けをするかを想定するためのシートです。シート2の内容は、シート1の場面を支援するために使用されます。

学級活動(1)の「話し合いのめあて」「話し合うこと」の働き掛け

- 「助言」や「問い掛け」による軌道修正
 - ・ 「本当に、その意見は話し合いのめあてである関わり合える活動になるのかな。少し考えてみよう。」
 - ・ 「好きなサッカー選手ランキングは、自分たちがやってみたいから出た意見なのではないかな。話し合いのめあてであるみんなが理解できる状態にはならないよね。」
 - ・ 「話し合うことは、一つの取組を決めようだったよね。それだと、二つ決めることになってしまうよ。」
- 「資料提示」や「助言」による話し合う内容の焦点化や話し合いの活性化
 - ・ (写真を見せながら)「一人で新聞を作っている場面だね。この新聞の内容だと、このような場面ができてしまうね。それで、話し合いのめあてである『お互いを理解できる』状態となるかな。」
 - ・ 「話し合いのめあてである『関わり合う』って、どういうことかな。みんなに説明してみよう。」
- 称賛による価値付け
 - ・ 「意見を出し合い、内容を相談していくことで 話し合いのめあてである『関わり合うこと』につながるのだね。」
 - ・ 「そうか、クラスメイトランキングを見れば、みんなが興味をもっていることが分かるから、話し合いのめあてである『お互いを理解する』ことができるのだね。」

図3 二つの場面の働き掛けを想定する「教師の働き掛けシート2」

A3判でできている「教師の働き掛けシート2」は、A4判でできている「教師の働き掛けシート1」を重ねることにより、「教師の働き掛けシート1」で想定した児童の意見や考え方を基にして使用することができる。学級活動(1)に関しては、「比べ合う」「決める」場面、学級活動(2)に関しては、「見付ける」「決める」場面での教師の働き掛けを想定する。また、働き掛ける内容としては、「助言や問い掛けによる話し合う内容の方向の軌道修正」「助言や資料提示による意見の焦点化、話し合いの活性化」「称賛による価値付け」などが考えられる。

4 研究構想図



V 研究の計画と方法

1 実践の概要（期間は、資料を用いて、授業者と共に授業構想について検討した期間を示している）

対 象	小学校第1学年（29人）	小学校第2学年（27人）	小学校第3学年（28人）
期 間	令和元年7月～10月	令和元年7月～11月	令和元年7月～10月
指 導 者	学級担任	学級担任	学級担任
活 動 内 容	学級活動（2）における 話し合い活動	学級活動（1）における 話し合い活動	学級活動（2）における 話し合い活動

対 象	小学校第 4 学年 (30人)	小学校第 5 学年 (30人)	小学校第 6 学年 (32人)
期 間	令和元年 7 月～11月	令和元年 7 月～11月	令和元年 7 月～11月
指 導 者	学級担任	学級担任	学級担任
活 動 内 容	学級活動 (2)における 話し合い活動	学級活動 (1)における 話し合い活動	学級活動 (1)における 話し合い活動

2 検証計画

検証項目	検証の視点	検証の方法
見通し 1	「議題・題材設定シート」を使うことで、児童の実態を通して「話し合うこと」「話し合いのめあて」「議題・題材」を設定することができたか。	<ul style="list-style-type: none"> 授業者への授業の振り返りアンケートにおける、「議題・題材設定シート」に関する記述と聞き取りの分析 「議題・題材設定シート」の三つの質問項目への記述内容と授業直前の授業構想との比較
見通し 2	2種類のシートで構成した、「教師の働き掛けシート」を作成することで、1単位時間の児童の思考の流れをイメージし、児童への働き掛けのポイントを見だし、適切な働き掛けを行うことができたか。	<ul style="list-style-type: none"> 授業者の授業後の振り返りアンケートにおける議題・題材設定シートに関する記述と聞き取りの分析 授業中の児童と授業者の発言内容の分析 授業の中で、児童が使用したワークシートの記述内容の分析 授業後の授業者によるリフレクションシートへの記述内容の分析

3 授業実践（実践対象は、第 1～6 学年の 6 学級の担任とし、共通の手順で行った。）

実践内容	実施時期	教師の活動 ☆ねらい
授業実践の打合せ①	7月 24日 (第 5 6 学年) 9日 (第 3 学年) 30日 (第 1 学年) 31日 (第 2 4 学年)	<ul style="list-style-type: none"> 「議題・題材設定シート」を使い三つの質問項目を答えることで、「議題・題材」を設定する。 ☆「議題・題材」を設定する際に授業者がどのように児童の実態を捉えているかを調査・分析することで、授業者と児童との関係を把握する。
授業実践の打合せ②	8月 22日 (1～6年生)	<ul style="list-style-type: none"> 「教師の働き掛けシート 1」を確認することで、1単位時間の授業の展開を捉えていく。 ☆授業者が授業の展開を把握する上で困難な箇所を調査・分析する。
授業実践の打合せ③	9月 6日 (第 1 2 学年) 11日 (第 3 4 学年) 13日 (第 5 6 学年)	<ul style="list-style-type: none"> 「教師の働き掛けシート 1」に授業の展開を記述することで、授業での児童の思考の流れをイメージし、教師の働き掛けをする上で重要な場面、内容を捉える。 ☆授業者がより具体的な授業の展開を想像するために必要な要因を調査・分析する。 「教師の働き掛けシート 2」に話し合い活動が課題解決の方向に向かう上での支援方法を記述する。 ☆「教師の働き掛けシート 2」は、児童への働き掛けを想定するために有効であるかを検証する。
授業実践 ・学級活動 (2) ・学級活動 (2) ・学級活動 (1)	10月 8日 (第 3 学年) 11月 17日 (第 1 学年) 31日 (第 2 学年)	<ul style="list-style-type: none"> 学級活動 (1) (2)の授業実践を行う。 ☆「教師の働き掛けシート 1」を使い、思考の流れをイメージしたことは、「実践の内容」を決定する上で、有効であったかを検証する。

<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動 (1) ・学級活動 (2) ・学級活動 (1) 	<ul style="list-style-type: none"> 1日 (第6学年) 6日 (第4学年) 7日 (第5学年) 	<ul style="list-style-type: none"> ☆「教師の働き掛けシート2」で想定した児童への働き掛けは、話し合い活動が課題解決の方向に向かう上で有効であったかを検証する。
授業実践 リフレクション	<ul style="list-style-type: none"> 10月18日 (第1学年) 11月25日 (第3学年) 1月1日 (第26学年) 8日 (第45学年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業実践中の児童の話し合い活動の様子を見て、感じたことをリフレクションシートに記述する。 ☆授業者が実践時の児童の様子を振り返ることで、「教師の働き掛けシート」の有効性を明らかにする。
授業実践後アンケート	<ul style="list-style-type: none"> 10月18日 (第3学年) 11月25日 (第1学年) 1月6日 (第26学年) 13日 (第45学年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業実践後アンケートに、回答してもらう。 ☆「議題・題材設定シート」「教師の働き掛けシート」について振り返り、話し合い活動を考えていく上で改善を要する箇所を明確にする。

VI 研究の結果と考察

1 議題・題材設定シートの活用による議題や題材の設定

(1) 実践の概要

本実践では、学級や個人の課題から、課題が引き起こされている本当の要因を見付けることにより、課題を解決するための活動を考え、そこから議題や題材を設定することをねらいとしている。実践は「議題・題材設定シート」を用いて授業者が児童や学級の実態を想像しながら、三つの質問項目に記述することで「議題・題材」「話し合いのめあて」「話し合うこと」を見いだせるようにした。「議題・題材設定シート」の三つの質問項目とは、「①課題と背景にある要因を明確にする」「②児童が目指す理想的な状態を想定する」「③実践する場面を準備する」である。

(2) 実践の結果と考察

表1は、振り返りアンケート及び聞き取りの結果のうち、「議題・題材設定シート」に関する内容を抜粋し、整理したものである。記述を読むと授業者は、「議題・題材設定シート」があることで、児童の課題や実態を想像でき、議題や題材の設定につながったと述べている。

表1 振り返りアンケート及び聞き取りの結果

<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態と照らし合わせることができ議題が定まった。 ・児童の実態と理想の姿を考慮した結果、議題が出た。 ・議題の設定の仕方が分かった。 ・課題が焦点化された。 ・記述を進めていくことで、学級の課題が見付けられた。 ・始めに考えていた課題の中から、さらに奥深くにある課題を見付けることができた。

表2は、「議題・題材設定シート」から見いだした「議題・題材」「話し合いのめあて」「話し合うこと」について、その後、授業を実施するまでに授業構想を練る過程で、修正を必要としたかを分析したものである。

横軸は、学級活動(1)(2)のどちらであるかを、縦軸は、「議題・題材設定シート」の三つの質問項目に回答することで見いだした「議題・題材」「話し合いのめあて」「話し合うこと」の内容が、授業構想を練る過程で修正された

表2 授業前の「議題・題材設定シート」の記述時からの修正の有無

検 証 項 目	学級活動 (1)		学級活動 (2)	
	修正を必要としなかった	修正を必要とした	修正を必要としなかった	修正を必要とした
「議題・題材設定シート」の三つの質問項目から見いだされた、「議題・題材」の修正の有無	2	1	2	1
「議題・題材設定シート」の児童の理想的な状態から見いだされた「話し合いのめあて」の修正の有無	2	1	2	1
「議題・題材設定シート」の実践を準備する場面から見いだされた、「話し合うこと」の修正の有無	2	1	2	1

かどうかを示している。

表2から学級活動(1)(2)について、「議題・題材」「話し合いのめあて」「話し合うこと」を「議題・題材設定シート」に記述する段階で、授業時と同様の内容に具体化できていた割合は、約66%である。

上記から学級活動(1)(2)とも「議題・題材設定シート」は、授業者が児童の課題と実態を捉え、議題・題材を設定する上で支援になるものと考えられる。それは、「議題・題材設定シート」の設問が課題を解決していく児童の姿を想像させるものであり、回答していくことにより、議題や題材の設定に向けより具体的に考えることを促進させるからと考える。このように、「議題・題材設定シート」は児童の具体的な姿から「議題・題材」の設定に向けた思考を促す資料になっており、これらのことが振り返りアンケート及び聞き取りによっても見て取れる。

また、その内容を分析してみると、「議題・題材」「話し合いのめあて」「話し合うこと」が正確に見いだしている実践は、学級活動(1)(2)それぞれ二つずつ計4実践になっている。そして、それらの4実践は、「議題・題材」「話し合いのめあて」「話し合うこと」のどれか一つだけ見いだせたのではなく、三つすべてを見いだしている。

この原因について分析してみると、「議題・題材設定シート」は最初の質問項目である、「課題と背景にある要因」を考えることが大切となってくる。このことから、最初の質問である「課題と背景にある要因」を明確に捉えられることで、その後の二つの質問項目の記述内容を見いだすことにつながったものと考えられる。このことは、逆に言えば要因に迫れないとその後の質問項目への記述内容がずれていくということを表している。そこで、「議題・題材設定シート」を効果的に使うために大切な項目である、「課題と背景にある要因」を考えやすくするための記述例を、作成した資料の中に示すこととした。

2 「教師の働き掛けシート1」を用いた児童の思考のイメージ及び「教師の働き掛けシート2」を用いた児童への働き掛け

(1) 実践の概要

「教師の働き掛けシート1」は、「出し合う(さぐる)」「比べる(見付ける)」「決める」場面での児童の思考の流れを想定することで、どのような考え方で話し合い活動に臨むのかを捉えることをねらいとしている。まずは、A4判の「教師の働き掛けシート1」を用いて児童の思考の流れをイメージしながら授業者と授業の構想を検討し、児童の思考や意見を記述してもらった。

「教師の働き掛けシート2」は、課題解決に向けた話し合い活動の中で、児童にとって必要と思われる教師の働き掛けを事前に想定し、本時の中での児童への支援につなげていくことをねらいとしている。A3判の「教師の働き掛けシート2」の上に、作成した「教師の働き掛けシート1」を重ね、「教師の働き掛けシート1」の内容を踏まえ記述してもらった。

(2) 実践の結果と考察

結果については、授業者の授業後の振り返りアンケート、児童の授業中のワークシート、授業実践の児童と授業者の対話の様子、授業者の授業後のリフレクションの4点で検証した。表3は、振り返りアンケートでの「教師の働き掛けシート1」に関する記述である。

表3 振り返りアンケートでの「教師の働き掛けシート1」に関する記述

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 「比べ合う」から「決める」場面までの具体的な流れ、合意形成の仕方を参考にした。・ 「教師の働き掛けシート1」で「話し合いのめあて」を認識し、児童に意識させることができた。・ 効果的な発問や授業の修正をイメージ化することができた。・ 「教師の働き掛けシート1」を記述することで、授業のイメージがより具体的になった。・ 授業のイメージがより具体的になり、児童の考えをいろいろと考え整理できた。・ 「教師の働き掛けシート1」で授業の流れをイメージすることができた。 |
|--|

表3から、授業者は「教師の働き掛けシート1」があることで授業のイメージがより具体的にな

り、児童についての考えを整理することができたと感じていることが分かる。

図4は、児童の授業中のワークシートの記述内容を分析した上で、気付いたことを整理したものである。具体的には話し合い活動を行う上で重要な三つの視点（「話し合いのめあてに基づいて考えた」「理由をもって意見を決められた」「他の友達の見意見を参考にした」）について、話し合い活動を通して、児童が気付いたかを規準に整理した。そして、次の2点を確認できた。

- ・ 学級活動(1)については、二つの観点「話し合いのめあてに基づいて考えた」「理由をもって意見を決められた」に関する割合が高い。
- ・ 学級活動(2)については、すべての観点に関する割合が高い。

以上のように、児童は話し合い活動で話し合う際の視点とすべきことに授業を通して気付いていることが分かった。これは、授業者が構想に沿って授業を展開できたことによる。「教師の働き掛けシート1」を使うことで、話し合い活動の中で意識させるべき話し合う際の視点を事前に捉えられたことが影響していると考えられる。

次に「教師の働き掛けシート2」の結果について検証していく。

以下は、授業実践での児童の発言内容と授業者の働き掛けの様子をまとめたものである。

A児：	<u>ギネスの挑戦で、身近な物で目指す世界一長いドミノがよいと思います。大人数でできて、消しゴムなどの身近な物が使えます。また、失敗しても思い出に残ります。</u> ①
教師：	<u>ギネスの中にドミノを入れることで、みんなで協力できるってことだね。</u> ②
B児：	<u>映画がよいと思います。みんなで協力して、役割を通して、お互いを認め合えるからです。</u> ③
C児：	<u>思い出の絵本がよいと思います。絵や字、内容、台本を書くことなどの役割を決めて、お互いにいいねと言い合い、認め合えるからです。</u> ③
教師：	二人とも、役割をもたせることが認め合うことにつながるという考えだね。すごく、よい理由だった。
D児：	身近なものでドミノがよいと思います。協力して並べたり、組み合わせたりでき、意見を述べることで、協力して認め合えるからよいと思います。

下線部①から、A児の頭の中では「協力できる」という「話し合いのめあて」に関して、具体化したイメージができていないようである。また、この段階で「協力できる」「お互いを認め合える」という「話し合いのめあて」に含まれるイメージをクラスの児童同士も共有できていなかった。

そこで、授業者は出来るだけ児童から具体的なイメージを引き出そうと、下線部②のように、「話し合いのめあて」である、「協力できる」「お互いを認め合える」ことについて、「称賛による価値付け」の働き掛けを行った。

すると、下線部③の発言が生まれた。このことにより、児童全員が「認め合う」とは、「役割をもつこと」であると具体的に捉えることができた。その結果、その後は「協力できる」こと、「お互いを認め合える」ことについて具体的にイメージできる意見が多く出された。

このような授業者の働き掛けを通して、話し合い活動を課題解決の方向に修正できた場面は、六つの授業実践の中で多数見られた。しかし、この中には事前に想定していなかった働き掛けも含まれている。

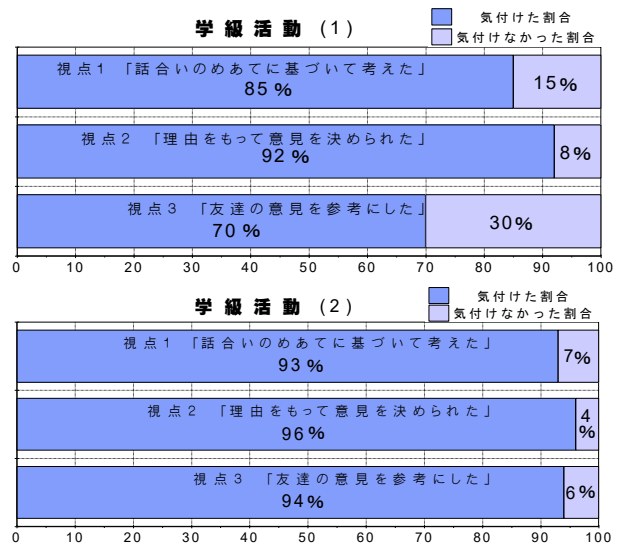


図4 児童が話し合い活動を通して、気付いた主な視点

表4は、各授業者が6回の授業で児童に対し「話し合いのめあて」に照らして行った、課題解決に方向付ける助言及び称賛の回数をまとめたものである。縦軸は、授業者の助言及び称賛の後の児童の発言内容の変化の有無、横軸は、児童に対する働き掛けが全員の児童また個人のいずれを対象にした発言か、また、その働き掛けを、「教師の働き掛けシート2」で事前に想定していたかどうかを示している。

表4 教師の児童への助言・称賛の分析

	助言及び称賛			
	全体を対象とした発言		個人を対象とした発言	
想定 変容	想定していた	想定していない	想定していた	想定していない
変容あり	1	12	36	21
変容なし	0	3	1	2

表4を見ると、想定していたかどうかの有無に関わらず、ほぼすべての助言及び称賛後に、児童の発言内容に変化があったことが分かる。これは、「教師の働き掛けシート2」が児童に働き掛ける場面を「出し合う（見付ける）」「決める」場面に、また働き掛ける視点を「話し合いのめあて」「話し合うこと」に焦点化して考えていたことが理由であると考えられる。焦点化して働き掛けを想定しておいたことで、事前に想定していなかった場面や内容であっても、児童の発言内容に応じて助言や称賛を行うことにつながったものと考えられる。

このことが、表5の授業者の意見からも見て取れる。表5を見ると、児童への働き掛けを想定する上で「教師の働き掛けシート2」が助けになったことを、授業者自身も感じていることが分かる。授業者の記述から、「教師の働き掛けシート2」を用いて構想した授業によって、児童に「話し合いのめあて」を意識させることができることを認識できたこと、児童への働き掛けの場面や方法を事前に準備しておくことに役立ったことが分かる。

表5 振り返りアンケートでの「教師の働き掛けシート2」についての意見の抜粋

- ・ 「話し合いのめあて」に沿っているか、授業中に確認することを準備できた。
- ・ 「話し合いのめあて」に当てはまるように子ども達の発言を集めることができた。
- ・ 「教師の働き掛けシート2」により、「話し合いのめあて」を使うことが大事だと思った。
- ・ 児童の反応を予想して、それに対する助言、問い掛けをすることで児童の意見をより深くできることが分かった。
- ・ 机間支援をした際の「話し合いのめあて」に沿った、具体的な支援方法について、事前に準備することができた。

以上のことから、「教師の働き掛けシート1」では、授業者が児童の思考をイメージし記述することで、児童がもつであろう意見や考え方を授業前に把握するために有効であったことが分かる。また、児童が意見をもつための話し合う際の視点を「教師の働き掛けシート1」を作成する際に授業者が捉え、「教師の働き掛けシート2」の記述を通して、「話し合いのめあて」を意識させるような助言や称賛をすることができた。そのため、話し合う際の視点を児童も意識して話し合い活動に取り組めたと考える。

「教師の働き掛けシート2」では「教師の働き掛けシート1」でイメージした、児童の思考を踏まえ、事前に児童のつまづきを予想し、働き掛けの場面や内容を想定して準備していたため、実際の授業の場面で「話し合いのめあて」を意識させるような助言や称賛をすることができた。このことにより、話し合い活動を課題解決の方向へと修正したり、活性化させたりすることができた。

一方で授業後に、表6のような課題をもった授業者がいた。

表6 授業実践者と行った授業リフレクションについての記述の抜粋

- ① 「さぐる」場面で、予想していた意見に対しての働き掛けを考えることができなかった。
- ② 「決める」場面で、「話し合いのめあて」に沿っていない意見に、上手く助言できなかった。
- ③ 「決める」場面で意見を決める時、賛成の多いもので納得できない児童がいた。
- ④ 「決める」場面で、合意形成できず、反対意見が出てしまった。

①～④の課題を解決するためには、授業者が働き掛けを想定する際の手掛かりを示す必要があると考えた。そこで、助言や称賛などの働き掛けの具体的な内容を、「比べ合う」「決める」などの

場面ごとに、「話し合いのめあて」「話し合うこと」の視点に合わせて例を作り、作成した資料の中で明示することとした。

VI 研究のまとめ

1 成果

- 「議題・題材設定シート」の質問項目である「課題と背景にある要因」「児童が目指す理想的な状態」「実践する場面を準備する」を考えることで、「話し合うこと」「話し合いのめあて」「議題・題材」を明確に見いだし、設定することができた。
- 「教師の働き掛けシート1」で児童の思考をイメージすることで、「教師の働き掛けシート2」で教師が働き掛ける具体的な場面や内容を想定し、児童へ助言や問い掛けなどの働き掛けをすることができた。

2 課題

- 「議題・題材設定シート」は、教師と児童と一緒に作成することを想定している。しかし、「教師の働き掛けシート」は、教師が作成することを目的とした。そこで、「教師の働き掛けシート」を教師と児童と一緒に作成できるように発展させることで、より児童主体の自治的・自律的な話し合い活動につながる。

VII 提言

学級活動をする上で、児童の思考をイメージすることが大切になる。児童の思考をイメージすることで、課題の解決に方向付けられた「議題・題材」を設定できたり、学級活動の中で教師が働き掛けをする場面や内容を事前に想定したりすることができる。児童の思考をイメージすることで、より自治的・自律的な話し合い活動につなげていくことが大切である。

<参考文献>

- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別活動編』（2018）
- ・関 喜史『互いを認め合い、よりよい人間関係を築こうとする態度の育成—学級活動(1)における「集団決定の仕方」と「事後の活動」の工夫を通して—』群馬県総合教育センター（2012）
- ・岸 顕司『他者の意見を受容し、根拠に基づき思考・判断をしながら、話し合うことのできる児童の育成—「聴くこと」「認めること」「自覚すること」の三つの視点からのアプローチ—』群馬県総合教育センター（2018）
- ・文部科学国立政策研究所教育課程研究センター『みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編』（2019）
- ・群馬県教育委員会『はばたく群馬の指導プランⅡ』（2019）

<担当指導主事>

足達 哲也 天田 直木